



第3回九州女子ミッドアマチュア選手権競技 第3回九州女子シニア選手権競技

競技報告 (2015/ 9. 3)

写真と記事 : M. Kikutake

女子Mは1アンダー 71

渡辺恵理 (チェリー宇土) が2連覇を達成

女子シニアは7オーバー 79

松尾賢子 (北方) が初優勝



第3回九州女子ミッドアマチュア選手権競技・第3回九州女子シニア選手権競技は9月3日、福岡県糸島市の伊都ゴルフ倶楽部(6051㎡、パー72)で行われ、女子ミッド(M)は33歳の渡辺恵理(チェリー宇土、写真Ⓔ)が1アンダー、71のスコアで2連覇を達成した。

女子シニアは7オーバー、79で回った51歳の松尾賢子(まさこ、北方、写真Ⓕ)が初優勝した。

今大会は日本ゴルフ協会(JGA)の改定に伴い、女子Mの参加資格が従来の30歳以上から25歳以上に変更になった。また、女子シニアはJGA主催のブロック予選が廃止され



たことにより、地区大会を日本選手権の予選として実施。女子Mには72人、女子シニアに80人(欠場3人)が参加した。

気象条件は事前の雨予想がよい方に裏切られ、晴れで気温28.0度、西北西の風1.8m(正午現在)と絶好のコンディションでの大会となった。

渡辺、イーグルスタートで快勝

競技は女子Mで、渡辺が出だしの1番(パー4)でいきなりチップインイーグルを奪う好スタート。後半も1バーディー、2ボギーと手堅く攻めて、ただ1人アンダーパーをマークし、2位に並んだ34歳、米村洋子(八代)と25歳、黒石沙也佳(北山)の2人に4打差をつけて快勝した。さらに2打差の4位タイに高田雅野(西戸崎シーサイド、45歳)と高橋圭子(ミッションバレー、43歳)の2人だった。

松尾は自身の初タイトル

50歳以上のシニアは、松尾が前半を1バーディー、2ボギーの37と安定したラウンドで回り、後半の終盤のパー3で7をたたくなどして乱れたが、1打差で後続を振り切り、自身でも初タイトルとなる栄冠を獲得した。その1打差の2位タイは東大森れい子(熊本空港、60歳)と山口美帆(佐世保、51歳)の2人。さらに2打差の4位タイに脇園幸風(若松、57歳)と北

野弘子（久住高原、53歳）の2人が入った。

また、参加最年長で九州女子シニア初出場の74歳、犬童アヤ子（くまもと城南）は16オーバーの88で27位タイと健闘した。犬童は1991年の第21回九州女子選手権で優勝経験がある。

日本女子ミッド、日本女子シニアともに9人が出場権を獲得

この試合の結果、地元福岡県のザ・クイーンズヒルGCで行われる第20回日本女子ミッドアマチュア選手権（11月19～20日）には6位タイまでの上位9人が、第23回日本女子シニア選手権（11月5～6日・富山県、呉羽CC日本海）は6位タイまでの7人と、8位タイの3人のうちマッチングスコアカード方式で選ばれた2人の計9人が出場権。これに昨年の九州女子シニアで優勝の福井和子（ブリヂストン）がシード権を持っている。



イーグルにも浮かれず

成長したゴルフで連覇達成の渡辺恵理

初優勝時の昨年は、優勝が決まった瞬間、うれしさよりも驚きの方が大きかったのか、「うっそ～、どうしよう」と目を丸くしていたものだが、今年はすっかり落ち着いた受け答え。この1年、すっかり成長していた渡辺恵理でもあった。

スタートの1番でイーグル。第2打、残り120ヤードを好きなクラブという9番アイアンで会心のショットで、「いいところについたかな。バーディーチャンスぐらいに思った」と渡辺だ。ところが、グリーンに上がるとボールがない。ボールはカップに入っていたのだ。

幸先いい出だし。だが、渡辺は「気持ちよくなかった。とにかく気持ちで浮かれないように戒めてラウンドした」そうだ。その結果が、前半はイーグルのほかはすべてパー。後半もまず11番でバーディー先行。15、18番でボギーとしたものの、全参加者中ただ1人、アンダーパーで回った。

連盟主催競技で初優勝してからのこの1年、渡辺自身、どう成長したのかを問うと、「打ったようでも、上がってくるとスコアがまとまっている。じたばたしなくなったのかな。気持ちの切り替えがうまくなったというか。技術も全体的によくなっているのでは…」。

昨年の九州女子選手権で、雨の中で前半39で回りながら、後半は「浮かれてしまって」と48と大たたきの結果、予選落ち。その悔しい思いが、成長の背景にあったのだ。

高校時代はソフトボール選手。18歳の時に父親に勧められて始めたゴルフ。ジュニア時代があったわけではない。社会人になって本格的に取り組み、昨年の大会で連盟競技初タイトルになった。

さて、3度目の挑戦になる今年の日本女子ミッドアマは九州が舞台。その目標は、「去年（36位タイ）よりは上に行きたい」と浮かれることなく、控えめに口にした。



欲しかった冠を手にした

九州女子シニア初優勝の松尾賢子

30歳のころ、仕事上の付き合いで勧められて始めたゴルフ。長い間、「楽しむゴルフ」できていたが、「ゴルフの競技というものを知って11年。冠、タイトルが欲しいと思い始めて、この試合で取りたいな、と…」。

照準を合わせた試合で見事にタイトル奪取した格好だった。

インスタートの10番（パー5）で下りラインの1・5mを沈めて幸先いい出だし。その後、2ボギーがあったものの、前半は37とまずまずだった。ところが、後半は3番でディポットに入ったボールを第2打OB。4番バーディーで一つ取り返したものの、8番（パー3）で第1打を入れたバンカー脱出に3打を要するなど、「7」の大たたき。続く9番もアイアンをひっかけてボギーとし、2ホールで5オーバーとバタバタしてしまった。

それだけに、うれしさも半ばといったところか。「74、75ぐらいで回りたいかった。まだまだ修行が足りないということでしょう」と松尾だった。

高校時代（日向市の富島高）はソフトボール選手でインターハイも経験。卒業後は実業団の旭化成で活躍した。ゴルフは20年ぐらいのキャリアになるが、実は「ゴルフの競技があっていることを知らなかった」という。最近は競技志向で、去年はシニアではなくミッドアマに出て、日本女子ミッドにもコマを進めた。

151cm、57kgと小柄な体だが、ドライバーの平均飛距離は230㍎あり、ソフトボールで鍛えた体を武器にキレイのいいゴルフをする。日本女子シニアは2013年（30位タイ）以来、2度目の出場になるが、「今の自分の力が全国でどこまで通用するか、試していきたい」と話してくれた。